



JAMS NEWS

日本経営システム学会
<http://www.jams-web.jp/>

日本経営システム学会 第 61 回全国研究発表大会のご案内

会員の皆様には、時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、日本経営システム学会第 61 回全国研究発表大会が 2018 年 10 月 13 日（土）～14 日（日）に愛知産業大学（愛知県岡崎市）にて開催されます。会場は、名古屋駅より名古屋鉄道名古屋本線特急電車利用で大学最寄りの藤川駅まで 45 分程です。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

記

開催日：2018 年 10 月 13 日（土）～14 日（日）

※12 日（金）には、中部支部共催の工場見学を予定しています。

開催場所：愛知産業大学 〒444-0005 愛知県岡崎市岡町原山 12-5 <http://www.asu.ac.jp/>

連絡先：実行委員長 丸山宏（愛知産業大学） sanshu@asu.ac.jp

主催：日本経営システム学会

統一論題：「ソサエティ 5.0 と経営システム」

基調講演：一般社団法人中部経済連合会 調査部長 川瀬康博 氏

特別講演：愛知産業大学造形学部教授 伊藤庸一郎 氏

参加費：会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、協賛学会員・同学生会員はそれぞれ会員・学生会員と同額、非会員 6,000 円、非会員学生 4,000 円、（当日支払は各 1,000 円高）

懇親会費：会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、協賛学会員 5,000 円、非会員 6,000 円（当日支払各 1,000 円高）

昼食：大学内の食堂・コンビニは 13 日、14 日共に閉店です。藤川駅に隣接する道の駅藤川宿に軽食コーナー（営業時間 9:00～18:00）とコンビニエンスストア（24 時間営業）があります。

宿泊：名古屋鉄道東岡崎駅から徒歩圏内のホテルが便利です。JR 岡崎駅周辺にもホテルはありますが、名鉄に乗るためには愛知環状鉄道もしくはバスに乗る必要があります。各自で早めの手配をお願いいたします。

発表申込：発表申し込みは、学会ホームページ <http://www.jams-web.jp/> の発表申込フォームから申し込みいただくか、ダウンロードした申込書に必要事項を記入の上、メール添付で学会事務局 E-Mail: keieisys@jams-web.jp へ、8 月 24 日（金）までに送信してください。本 JAMS NEWS の発表申込書を学会事務局宛 Fax 03-3371-5185 にご送付いただいても構いません。

原稿締切：pdf および word 入稿または郵送にて、9 月 14 日（金）まで（厳守）、学会事務局宛又は第 61 回大会発表原稿入稿フォームから御投稿ください。

参加申込：次号 JAMS NEWS に同封の振込用紙または HP の振込み方法を参考にして 10 月 5 日（金）までに上記金額をお振込みください。期限後に振込みされた方は、振込控えまたはコピーをお持ち下さい。

■会場設備について

全ての発表会場に PC(Windows, MS-Office)とプロジェクタが設置されていますので、原則として会場の設備をご利用下さい。データは USB メモリに入れてお持ち下さい。特殊なソフトをご使用の場合は、ノート PC をお持ち込みも可能ですが、コネクタ接続など準備に時間がかかりますので、ご注意ください。

■大会会場へのアクセス

名鉄藤川駅からスクールバスをご利用ください。また、藤川駅には特急、急行などは停車しませんので、乗車される時刻を確認ください。

- ・名鉄名古屋本線「名鉄名古屋」駅から「藤川駅」まで約 45 分（特急に乗車し「東岡崎」駅で普通に乗り換え）
- ・名鉄名古屋本線「豊橋」駅から「藤川駅」まで約 30 分（急行に乗車し「本宿」駅で普通に乗り換え）
- ・JR 東海道本線「浜松」駅から「藤川駅」まで約 65 分（「豊橋」駅で名鉄名古屋本線 急行に乗り換え「本宿」駅で普通に乗り換え）

交通アクセス及びキャンパスマップ <http://www.asu.ac.jp/univ/access/>



名鉄名古屋本線「藤川」駅からスクールバス3分



■藤川駅スクールバス乗り場

※名鉄特急は追加料金なしで乗車できます。

■学生研究発表優秀賞について

当学会では、学生セッションの研究発表を審査して優秀な発表には「学生研究発表優秀賞」を授与しています。学生であれば、正会員・学生会員を問わず、学生セッションの研究発表は審査の対象となります。ただし、下記の点にご留意下さい（もし、ご不明な点がございましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい）。

- ・学生セッションの発表は、正会員（一般的には指導教員）との連名とし、ファースト・オーサーは学生とします。
- ・学生セッションでの単独発表は、正会員の学生に限ります。
- ・学生研究発表優秀賞の受賞対象者は、単独発表、連名発表のファースト・オーサーの学生のみとします。
- ・学生セッションの発表原稿は、会員の種別を問わず2頁とします。

■学会発表に関する原則について

当学会では、研究発表大会をスムーズに運営するために、口頭発表に関して「学会発表に関する原則」（学会ホームページ <http://www.jams-web.jp/information/prerule.html>）に従って運営しています。口頭発表を申し込まれる前にご確認ください。なお、この原則は、大会委員会および大会実行委員会により運用されます。不明な点がございましたら、学会事務局へお問い合わせください。

三菱航空機 MRJ 工場と博物館明治村見学会のご案内

10月12日(金)には、中部支部・全国研究発表大会実行委員会共催で三菱航空機 MRJ 組み立て工場と、博物館明治村見学のバスツアーが予定されています。多数ご参加ください。バスは、昨年秋の大会時のツアーと同じ場所(名古屋テレビ塔北側の久屋大通公園駐車場)に集合、10時出発、名古屋帰着18時、(これらの時間は暫定です。今後、変更があり得ます)。交通費は不要(中部支部予算より拠出)で、各博物館の入場料は個人負担をお願いします。

(1) MRJ ミュージアム入場料 800 円 (参加者が 20 名未満の場合は 1,000 円)

(2) 博物館明治村入場料 (私学共済などの施設利用券を使える方は 500 円、一般は 1,700 円、シニア 1,200 円)

昼食は、各自、明治村内でおとりください。MRJ には、あらかじめ、参加者のリストを提出し、当日は全員、身分証明書を提示します。外国人の方は、パスポート、または、在留資格証明書、などを提示することになります。なお、見学中は写真撮影禁止、撮影装置もロッカーへ預ける、など、厳格な規制があります。詳しい内容は、次回の JAMS ニュースにてお知らせします。

担当：小田哲久 (愛知工業大学：JAMS 監事、中部支部幹事)

2017 年 学会賞・論文奨励賞について

表彰委員長 川中 孝章

標記の賞につき、学会賞・論文奨励賞選考ワーキンググループにおいて、厳正に受賞候補者を選考いたしました。その後、理事会の審議を経て、下記 2 名が 2017 年学会賞、及び論文奨励賞の受賞者に決定し、表彰されましたので報告いたします。

【学会賞】

受賞者：奥井 秀樹 (久留米大学)

対象業績：奥井秀樹, "仕事の専門性と組織市民行動 -製造業における質問票調査結果の分析-", 日本経営システム学会誌, Vol.34, No.1, pp.61-71(2017)

受賞理由：

当該論文は、成員が組織に対して行う自発的な貢献行動を表す組織市民行動に関する論文である。組織市民行動の生起は、個人が行うものであることから、ミクロな状況要因の影響が重要であるにもかかわらず、既存研究は、ミクロな状況要因の検討が不十分であった。当該論文は、組織市民行動研究に、コンテインジェンシーアプローチを導入し、組織コミットメントや職務満足度を含めたミクロな状況要因の影響を導入している。具体的には、成員が従事する仕事の専門性に着目し、専門性の高い仕事に従事する A 社と専門性の低い仕事に従事する B 社の比較を行っている。そして、専門性が低い組織では、情緒的な組織コミットメントを通じ組織市民行動が生起されるのに対して、専門性が高い組織では、職務満足度を通じ組織市民行動が生起されるという興味深い結果を得ている。既存研究を踏まえた理論構築、モデルの設定、分析結果の考察はしっかりとなされており、仕事の専門性によって組織市民行動の生起メカニズムが異なることを実証した完成度の高い優れた論文である。以上のことから、日本経営システム学会「学会賞」にふさわしい研究論文であると判断する。

【論文奨励賞】

受賞者：後藤 智 (東洋学園大学)

対象業績：後藤智, 重本祐樹, 石田修一, "デジタルカメラのコモディティ化後における技術とデザインの競争優位性の分析", 日本経営システム学会誌, Vol.34, No.1, pp.73-78(2017)

受賞理由：

当該論文は、コモディティ化したハイテク製品を消費者がどのような視点で選択するのかについて、デジタルカメラを事例として技術とデザインの2つ要素に着目しながら、データ分析により検証を行った論文である。まず従来の研究が技術とデザインを二項対立的に評価してきたことを提示し、それに対してこれらを統合的に考えるべきであるという仮説を立てている。その上で、因子分析およびPLS-SEMにより、①

製品の競争優位性に対するデザインと技術進化の影響はそれぞれ別々に扱うのではなく包括的に扱うべきであること、②技術のコモディティ化後の競争優位性には技術進化とデザインの両方が好影響を与えること、③その一方で技術革新による性能の向上が製品外観を通してはユーザーに伝わっていないこと、を明らかにしている。当該論文は、デジタルカメラのようなハイテク製品のコモディティ化段階における製品開発戦略を立案する上で重要な示唆を与えると考えられ高く評価できるとともに、今後の更なる研究の発展が期待でき奨励に値すると認められる。以上のことから、日本経営システム学会「論文奨励賞」にふさわしい研究論文であると判断する。

第 60 回全国研究発表大会の報告

大会実行委員長 柳田義継

日本経営システム学会の第 60 回全国研究発表大会が、2018 年 5 月 26 日（土）～27 日（月）、統一論題「クラウドによる連携と経営システム」のもとに、横浜商科大学（神奈川県横浜市）で開催されました。基調講演は、「Cloud, Mobile, API および IoT と経営システム」と題して、株式会社テクニカル・ユニオン社長の戸倉正貴氏にご講演をいただきました。大勢の方にご参加いただき、大会実行委員会として感謝いたします。

統一論題 1 件、研究部会 28 件（うち学生発表 7 件）、自由論題で 58 件（うち学生発表 20 件）の合計 87 件の研究発表が行われました。基調講演者、学生スタッフ（27 名）を除き、大会の実参加者は 147 名、懇親会参加者は 61 名でした。最後に、今回の大会開催にご尽力いただいた、多くの会員の皆様、理事・評議員の皆様、発表者・司会者の皆様、学会事務局に、そして施設利用、大会準備支援をいただいた横浜商科大学に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。いろいろな不手際がありましたが、おかげさまで無事終了できました。

学生研究発表優秀賞について

表彰委員長 川中 孝章

第 60 回全国研究発表大会（於：横浜商科大学）終了後、表彰委員会を開催し、慎重に受賞候補者を選考いたしました。その後、理事会の審議を経て下記 3 名が学生研究発表優秀賞に決定しましたので報告いたします。

- | | |
|---|--------------|
| 1. 「顧客ロイヤルティ要因が商品推奨行動に与える影響」 | 杉浦 裕文（早稲田大学） |
| 2. 「電気自動車開発における関連研究分野とその連携に関する日米欧の比較研究」 | 秋葉 僚太（日本大学） |
| 3. 「情報の質量と高さを考慮した情報引力モデル」 | 山尾 健介（明治大学） |

JAMS ICBI 2017 国際大会の報告

大会運営委員長 小田 哲久（本学会前会長、愛知工業大学）
大会実行委員長 柳田 義継（横浜商科大学）

2017 年は、前回のハワイ大会から数えて 3 年目に当たり、ICBI の開催予定年でした。今回もハワイでの開催を前提にして 2016 年の 6 月から準備を開始しましたが、9 月中旬になって恒例の会場が使えないことがわかりました。しかし検討の結果、延期はせず、2017 年秋の第 59 回全国研究発表大会と同時・同会場で開催することにしました。なお、これまで ICBI の開催を支えていただいた方の多くが定年退職などで運営委員から外れ、若手を中心に運営をすることになりました。国内の大会と国際大会の同時開催は、過去に 2 回行われており、近いところでは第 55 回の小倉大会で開催されています。過去の国際大会

は全て JAMS 単独による開催ではなく、国際会議の単独開催、ICBI の国内開催、ともに未経験のことでしたが、結果的に参加者 59 名、論文数 44 件と予想外の盛会となりました。台風襲来と重なり大変な気象条件となったにも関わらず、無事開催することができました。今回の開催によって、国内開催の国際会議に大きな需要のあることがわかり、IJAMS の今後の運営に新たな展望を示す結果となりました。

国際大会のメインテーマは、“The Role of Management Systems for the Evolution of Industry 4.0” とし、国内大会の統一論題「第 4 次産業革命における経営システムの役割」と合わせました。初日（10 月 28 日）はレセプションのみで、懇親会を国内大会と合同とし、両大会参加者の交流を図ることができました。2 日目（29 日）は国内大会とは別棟ですが、渡り廊下で繋がり、相互聴講が可能となっていました。名古屋工業大学青山友美先生による、ICBI 基調講演 “IoT・Internet of Things or Internet of Threats?: Implication of cybersecurity management in the modern connected world” は国内大会が開催されている棟で行われ、両大会参加者が多数聴講しました。夕方、東海市からバスで名古屋市中心部の名古屋ガーデンパレスへ移動し、テーブル式の夕食会を開催しました。国際会議ではカンファレンスツアーの開催が一般的ですので、今回も、3 日目（30 日）に見学ツアー 3 コース（トヨタ自動車、カクキュー八丁味噌、明治村）を用意しました。前日の悪天候でやむなく帰還された方もおられましたが、27 名の参加者にはご満足いただけたことと思います。

開催に当たり塩出会長はじめ理事各位、発表者・司会者を含む参加者各位・実行委員各位、また、野村淳一委員長はじめ第 59 回全国研究発表大会実行委員各位、会場校の星城大学様、その他、多くの皆様にご多大なる御支援・御協力を頂きました。この場を借りて改めて御礼を申し上げます。

2017 年度第 4 回理事会のまとめ

- I. 開催日時：2018 年 3 月 16 日（金） 16:00～18:30
- II. 開催場所：東海大学 高輪キャンパス 1 号館 3 階 会議室
- III. 出席者：塩出、椎原、浅井、石田、板倉、川中、近藤、今野、永松、西口、西村、金子、佐藤、谷崎、原田、深澤、水野、毛利 （監事）小田、松丸 敬称略
- IV. 審議事項
 1. 2017 年度第 3 回理事会議事録の確認（西口）：平成 2017 年度第 3 回議事録の内容が報告され、原案の通り承認された。
 2. 会員の入退会（西口）：入退会の状況について説明がなされ、承認された。これにより、正会員 520 名、学生会員 136 名となった。
 3. 第 60 回全国研究発表大会の準備状況について（永松）：第 60 回全国研究発表大会の準備状況について報告がなされた。
 4. 研究部会の規程について（今野）：研究部会細則案について、研究委員会から提案がなされた。一部文言修正の上、承認された。
 5. 論文誌投稿条件他について：論文誌編集委員会より説明がなされた。査読状況が報告されたのちに、編集プロセスと論文テンプレートの改善について説明がなされた。そして、論文誌への投稿条件について提案がなされたが、研究ノートの位置づけなどを含めて再検討することになった。また、編集委員の増強についてはその案を理事会に提出することとなった。
 6. 2017 年「学会賞」「論文奨励賞」受賞候補者について（川中）：学会賞・論文奨励賞選考ワーキンググループによって「学会賞」「論文奨励賞」の候補が審査された。その結果、それぞれ 1 件ずつの推薦があり、承認された。また、副賞を表彰盾などに変更することが了承され、会長と表彰委員長に一任された。
 7. シニア会員について（小田）：追加資料に基づき説明があり、会員の種別に「特別会員」を追加する案が提示された。慎重に議論した結果、特別会員は満 70 歳以上で希望者が申請して理事会で承認されたものになった。なお、年会費を 2,000 円とし学会誌を送付しないことになった。これに基づき次回の理事会で会則の改正案を示すことになった。そして、2018 年度の総会に諮ることが了承された。
- V. 報告事項
 1. 第 59 回全国研究発表大会の収支決算について（永松）：開催状況、収支について報告された。
 2. ICBI2017 の収支決算について（永松）：収支について報告された。なお剰余金については国際関係特別会計に繰り入れられることとなった。
 3. 学生研究発表優秀賞について（川中）：第 59 回全国研究発表大会学生研究発表優秀賞について報告された。

4. IJAMS について (板倉) : IJAMS Vol.9 が発行されたことが報告され、現在 25 本の投稿があることが報告された。また、査読システムの利用については、有料であっても推進することが了承された。
5. 学会予算の執行状況について (事務局) : 2018 年 2 月末時点での予算執行状況について報告がなされた。
6. 総会資料の作成について (西口) : 総会資料作成の依頼が各委員会になされており協力が要請された。
7. 2018 年度予算案について (事務局) : 2018 年度予算案の作成のための依頼が各委員会になされており協力が要請された。
8. 他学会への協賛について (西口) : 2017 年度は 6 件の協賛を承諾したことが報告された。

ヒューマン・リソース研究部会のお知らせ

開催日時 : 2018 年 7 月 21 日 (土) 15 : 00-17 : 00
発表予定者 : 中新田涉里 (明治大学), 山下洋史 (明治大学) : 「連続型評定尺度法の回帰パラメータによる評定傾向の分析」
山下洋史 (明治大学) : 「石川県七尾市の能登島における複数方向の海上架橋」
水上祐治 (日本大学), 青木奈々美 (日本大学), 平野未来 (日本大学) 「事例分析 : 科研費関連アンケートデータを用いた傾向分析に関する一考察」 (仮)
開催場所 : 日本大学 生産工学部 30 号館 5F 水上研究室
連絡先 (幹事) : 金子 勝一 (山梨学院大学) Tel.055-224-1337 E-mail:shoichi@ygu.ac.jp

経営モデル研究部会のお知らせ

開催日時 : 2018 年 9 月 8 日 (土) 15 : 00-17 : 00
発表予定者 : 調整中
開催場所 : 東海大学 高輪キャンパス 1 号館 3F 1308 教室
連絡先 (幹事) : 田畑 智章 (東海大学) Tel.03-3441-1171 E-Mail:tabata@tokai-u.jp
金子 勝一 (山梨学院大学) Tel.055-224-1337 E-mail:shoichi@ygu.ac.jp

APMC2018 開催のご案内

日台韓を中心とした経営学関連の国際会議 APMC (Asia Pacific Management Conference) を 9 月に松本大学で開催することになりました。つきましては本学会に協賛していただきましたので周知させていただきます。皆様奮ってご発表いただきますようお願いいたします。

開催日 : 2018 年 9 月 5 日-7 日
開催場所 : 松本大学 (長野県松本市新村 2095-1)
アブストラクト投稿締め切り : 2018 年 6 月 4 日

詳細につきましては下記のサイトをご覧ください。
APMC2018 Web サイト <http://apmc.web2.ncku.edu.tw>
問い合わせ先 : 蓮池隆 (早稲田大学 創造理工学部)

日本経営システム学会 学会会則の変更について

5 月 26 日に開催された会員総会にて、学会会則の改訂が認められました。改訂の主な内容は会員種別に特別会員が加えられたことです。特別会員への移行の受付方法等については、今後の理事会で検討する予定です。

教員公募のご案内

神戸学院大学 経営学部 教員公募のご案内

所属学部学科：経営学部経営学科

募集分野：情報処理（プログラミング）

採用人数：1名

募集職名：教授、准教授または講師（5年任期付教員）

勤務条件等：本学規程による。【責任授業担当持ちコマ数6コマ契約または4コマ契約】

神戸学院大学任期付教員任用規程抜粋

http://www.kobegakuin.ac.jp/files/adoption_staff/information/17ninyouki.pdf

神戸学院大学任期付教員任用規程運用細則抜粋

http://www.kobegakuin.ac.jp/files/adoption_staff/information/17ninunsai.pdf

採用予定日：2019年4月1日

任 期：5年 ※再任用可（1回）

担当科目：情報処理（プログラミング）、経営数学、経営情報処理等の科目の中から週6コマまたは週4コマ（1コマ90分）を担当する。

勤 務 地：神戸学院大学 ポートアイランドキャンパス

応募資格：博士の学位または同等の研究・教育能力を有し、かつ職名に相応しい責任感を有する者。但し、採用日の前日から起算して6ヶ月以内に学校法人神戸学院と有期労働契約を締結していた者（以下「非常勤講師」という。）は、直近の非常勤講師等での雇用契約期間を含めた5年間とする。

応募締切日：2018年7月10日（火）必着

http://www.kobegakuin.ac.jp/adoption_staff/information/1941keiei.html

法政大学 社会学部 教員公募のご案内

職名・人員：専任講師、准教授または教授 1名

担当科目：「メディアテクノロジーと社会」、「メディアテクノロジーと社会分析」、「メディアテクノロジーと社会実習」のほか演習等。主担当科目は「メディアテクノロジーと社会」「メディアテクノロジーと社会分析」とする。

応募資格：(1)博士学位取得者、またはそれと同等の研究業績を有する者、あるいはメディアを利用した社会課題の解決についての研究・実践の業績がある者。

(2)国籍は問わない。ただし、日本語が十分に使用可能であること。

採 用 日：2019年4月1日

応募締切日：2018年7月25日（水）17:00 必着

http://www.hosei.ac.jp/saiyo/syakai_bosyu.html

<http://www.jams-web.jp/images/koubohousei2018.pdf>

近畿大学 工学部 教員公募のご案内

募集職種：教授・准教授または講師

募集人員：1名

専門分野：データサイエンス分野（人工知能、オペレーションズ・リサーチ、など）

担当科目：アルゴリズムとデータ構造、シミュレーション科学、オペレーションズ・リサーチ、など

応募資格：(1)博士の学位を有する方 (2)大学院の指導を担当できる方（教授・准教授の場合）

(3)上記専門分野における研究業績があり、教育熱心な方

(4)学部運営に熱意を持ち、他教職員と協調できる方

着任時期：平成31年4月1日

提出書類：Web ページ（<http://www.kindai.ac.jp/about-kindai/employment/index.html>）の「平成31年度 教員公募募集要項 情報学科」をご覧ください

応募締切：平成30年8月31日（必着）

送付先：〒739-2116 広島県東広島市高屋うめの辺1番 近畿大学工学部 学部長 野村正人 宛（提出書類を厳封の上、「教員応募書類（情報学科）」と朱書きし、簡易書留でご送付ください）

照会先：情報学科 学科長 田中一基、TEL (082)434-7384・ダイヤル：(082)439-1110

（内線873）、E-mail kazumoto@hiro.kindai.ac.jp

その他：<http://www.kindai.ac.jp/about-kindai/employment/index.html>

<http://www.jams-web.jp/images/koubokindai2018.pdf>

日本経営システム学会 研究発表申込書

2018年度 第61回全国研究発表大会

発表種類（研究、部会）（発表種類のいずれかを○でお囲み下さい）

発表セッション区分（一般セッション、学生セッション）（区分のいずれかを○でお囲み下さい）

口頭発表者会員種別（正会員、学生会員）（会員種別のいずれかを○でお囲み下さい）

会員連絡先

会 員 名			
所 属			
住所（勤務先・自宅）	〒		
連 絡 先	TEL	FAX	E-mail

論題および発表者

論 題		
ふりがな 発表者氏名（所属）	1. ()	2. ()
当日の口頭発表者には*を付す	3. ()	4. ()
研 究 部 会 名 (研究部会発表の場合)		代表者名: ()

発表要旨（200字以内・ワープロプリント貼付可）

キーワード (必ず記入)					
-----------------	--	--	--	--	--

- 注：1) 大会プログラムは、この申込書のキーワードおよび発表要旨により編成いたします。
 2) プログラム、論文集目次の論題および口頭発表者・連絡者は申込書の記載どおりに掲載いたしますので、明確に楷書にてご記入下さい。(ワープロプリント貼付可)
 3) 論文集原稿締切日までに間に合わない場合は、プログラムに掲載され、発表時間も確保されておりますが発表取り消しとしますので、ご了承ください



日本経営システム学会

住所 〒169-0073 東京都新宿区百人町 1-20-3 パラードハイム 703
 TEL03-3371-5324・FAX03-3371-5185
 E-Mail: keieisys@jams-web.jp